

ミロボー橋

ミロボー橋の下 セーヌが流れ
二人の恋が

なぜこころも思い出されるのか
喜びはいつも苦勞のあとに
来たものだ

夜よ来い 時鐘よ打て
日々は去り行き、私は残る

〈大学・一般行書〉